

論文のまとめ方



知識情報特論Ⅳ

村井麻衣子

卒業論文締切まであと何日？

- 順調に進んでいる人、ほぼ完成した人
 - 最終チェックとして気をつけるところ
- まだこれからという人、書けなくて苦しんでいる人
 - 締切りまでに書き上げるためのヒント

						1	2
11月	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	1	2	3	4	5	6	7
12月	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

はじめに

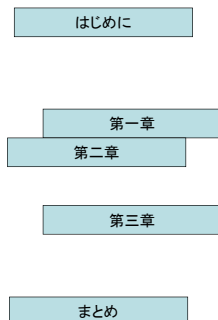
- 研究方法や論文のまとめ方は ……
研究領域などにより異なる
- 以下のアドバイスは、あくまで参考
- あてはまらない分野もあると思います
- 自分の研究領域の慣行や、ゼミの先生の指導に従う

レポートと論文との違い

- レポート
 - 調べたことをまとめる
 - +感想
 - 誰が読むか? → 提出先の先生
- 論文
 - 主張の展開、オリジナリティ、学問への寄与
 - 紹介型の論文もあるが、ある問題の解決に向けて内容を展開
 - 誰が読むか? → 様々な人、研究者、後輩 etc.

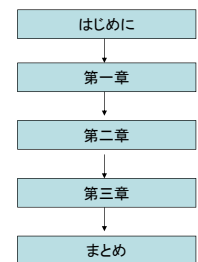
あまりよくない論文？

- 箇条書き的
- ただ調べたことを書いただけ
- 各パーツがばらばら、相互に関係していない、関連がわからない



よい論文

- ストーリー・論旨の展開がある
- 各パーツの位置づけが明確
- 目的と結論が対応し、目的・結論に必要な内容が論じられている
 - 例)「このように」でつなげていくくらいのイメージ



なので・・・

- 論文の構成は重要
- しかし、頭の中で構成ばかりを考えていても前に進まない
- 悩んでばかりいても、論文はできあがらない

おすすめの方法

- ある程度プロットやフローチャートを考えた上で・・・
 - おおまかな見取り図、構成を考える
 - 手書きがよい
- とにかく文章をかいてみる
 - 文章にすることで、論理的につめられていない部分が明確になる
 - 指導教官なども、たたき台があれば具体的にアドバイスできる
- あとは、試行錯誤でよい
 - ワードプロで切り貼り！

よい論文にするために

先行研究・関連文献をよく調査し、よく読む

- 関連文献の渉猟度＝論文の質に直結
- 内容はもちろん
- 形式的な論文のまとめ方・言い回しなども参考に

よい論文にするために

論文構成・見出しの工夫

- 目次・見出しをみるだけで、ある程度論文の展開がわかるとよい
- その章や項目で何をいいたいか
 - 論文の構成の熟慮につながる
 - 内容がわかるような、工夫された見出し

よい論文にするために

注を活用する(ただし、分野の慣例を優先)

- 調べたこと・考えたことはすべて論文に出し尽くすつもりで書く
 - 論旨からはずれることは、注に落とす
 - 注によって、立体的に論文を組み立てられる
- 参照した文献は、きちんと注で出典を示す
- 注(もしくは参考文献)の記載がない＝オリジナル？ 剽窃(著作権侵害)？

cf. 引用と参照

- 引用
 - 「 」で一言一句 違わずそのまま写す
- 参照
 - 自分の言葉でまとめる
 - 論文末尾の参照文献に記載
 - 法学の領域では・・・いずれも注をつけて出典を記載
 - そのままの言葉を紹介したいときに「 」を使う

引用・参照に関して

- 信頼性の高い文献・ウェブサイトを優先
 - 学術的な概説書・論文 > 一般的な書籍等
 - ウェブサイトもなるべく信頼性の高いサイトを
 - 公的なウェブサイト > 個人のサイトやブログ
- ウィキペディアや個人のウェブサイト・ブログ
 - → 同じ内容の情報が図書や雑誌論文等によっていないか確認
 - → どうしてもそのサイトにしか載っていない場合は引用してよい(分野による?)
 - ウィキペディアばかり引用している論文は印象が悪い!! =きちんと先行研究を参照していない

出典の書き方

- SIST02 → SIST(科学技術情報流通技術基準)のウェブサイトなどを参照
 - 照明学会編. 照明ハンドブック. 第2版, オーム社, 2003, 573p.
 - 潔, 石原和弘. 火山地域における震源計算についての提案. 火山. 2003, vol. 48, no. 5, p. 407-413.
- その他 当該分野の出典の書き方に従う
 - 三ヶ月章『民事訴訟法』125頁(弘文堂、第3版、1992)
 - 横田喜三郎「条約の違憲審査権—砂川判決を中心として」国家73巻7=8号1頁以下(1960)
- **書き方は論文内で統一させる**

書き方の注意

事実と意見を区別する

- 事実…例) ~である + 出典を示す
- 意見…例) ~と考える、~と考えられる、~と思われる、~であろう(この場合も、同旨の先行研究がある場合、参考文献として挙げる)
- 注) ~と思われる、~であろう → 分野によっては、適切ではない…論拠が弱いことを示してしまう;なるべく断定的な言い方を

書き方の注意

- です・ます調ではなく、だ・である調で
- 話し言葉は使わない
 - 例) すごく、みれる
- 誤字・脱字等に気をつける
- (文章&内容を整えるために) **推敲**を繰り返すことが大切!

よい論文にするために

タイトルや研究目的を見直す!

- 論文全体を書いた後に、タイトルや研究目的、序の部分が、論文の内容や結論に対応しているかをチェック
- タイトルや内容は、論文を書き進めていく中で変わっていったよいので、最終的な内容にタイトルなどを合わせる

はじめに、序

- 論文のテーマ
- 研究動機
- 問題の背景・先行研究の状況
- 研究方法
- 研究目的
- (目指す方向性)
 - 書くべき内容は論文テーマや分野によって異なる

なかなか書き進められない人

- 「はじめに」から書こうと、仕上げようとしていませんか？
 - 序を書くことは論文のなかで一番難しいともいわれる
 - 軽く書いておいて、最後まで書いてから直す
 - 「はじめに」や「序」は飛ばして、本論から書き始める
 - いずれにしても、はじめに、研究目的、タイトルは、最後まで書いてから見直しが必要！
- まずは書きやすいところから書いてみる(調べたことをまとめる部分など)でOK

論文のオリジナリティについて

- 先行研究でなされていない研究
- 先行研究では不十分な点を研究・改善
- 新しい課題を解決
 - etc. ?
- 先行研究をよく調査・理解することが重要

論文のオリジナリティについて

- テーマ自体には必ずしもオリジナリティが求められない分野もある
 - 例) 法学の領域・・・まだ日本で紹介されていない外国法と比較する研究もあるが； 例えば、一つの判決について、たくさんの「評釈」がだされる
 - 先行研究をきちんと渉猟する+それをふまえて自分の頭で考える→自然と「オリジナリティ」は生まれる=ほんのわずかのオリジナリティでOK
- いずれにしても・・・独自性をだすために突飛なことをいう必要はない

- あるテーマについて、よく調べ、深く考えてみると、何かいいたいこと、伝えたいことがでてくるはず・・・
 - 「論文」というだけで身構える必要はない
- それがうまく伝わるように、論文を構成して組み立てていく
 - 論理的に展開することが大切 → 自分以外の人に納得してもらう
 - 先行研究を活用: どう並べるか、どう位置づけるかによっても、オリジナリティが出る

- いいたいことを伝えるために・・・丁寧に文章を作っていく
- 「こんなことはみんな知っている」とは限らない
 - きちんと丁寧に説明
 - わかりやすく
 - 特に発表会では・・・いろんな分野の人がききます
 - でも不要な部分を冗長に書かない

卒研発表会で定番?の質問

- 研究目的は?
 - 明確に
 - 研究内容、結論と対応しているか
- 独自性・オリジナリティはどこにあるか?
- 先行研究との差異
 - 必要な分野では明確に意識
 - いずれにしても先行研究の渉猟は重要
- 発表会に向けては・・・いろいろな質問を想定し、準備しておく
: 論文でも注にいろいろな情報を加えておく

おまけ

著作権侵害とならない
「引用」をするために…



著作権法32条(引用)

- (引用)
- **第三十二条** 公表された著作物は、引用して利用することができる。この場合において、その引用は、公正な慣行に合致するものであり、かつ、報道、批評、研究その他の引用の目的上正当な範囲内で行なわれるものでなければならない。

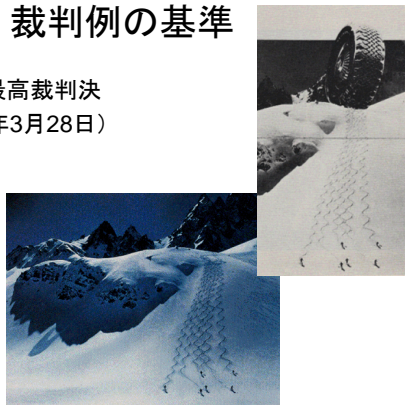
著作権法48条(出所明示)

- (出所の明示)
- **第四十八条** 次の各号に掲げる場合には、当該各号に規定する著作物の出所を、その複製又は利用の態様に応じ合理的と認められる方法及び程度により、明示しなければならない。
- 一 第三十二条、……

裁判例の基準

パロディ事件最高裁判決
(最判昭和55年3月28日)

- 明瞭区別性
- 主従関係



裁判例の基準

最近の動向

- 条文への回帰
– 引用の目的、態様、公正な慣行etc. を総合考慮
- 一方で…パロディ事件の二要件が用いられることも

とりあえず…

引用するとき気をつけておくこと

- 明瞭区別性
- 主従関係
- 出所明示
- 公正な慣行との合致
- 引用の目的

- 論文の執筆に必要な範囲で引用する
- 直接言及しないことのないようにする
– かざりでキャラクター、写真などを挿入しない

終わりに 1

- 著作権法上の評価と、学問上のマナーやモラルとしての評価は必ずしも一致しない
 - 著作権法上、アイデアの利用は自由
- 先行研究などの先例に従う
- ゼミの先生の指導に従う

- 卒論締め切り 12月25日
- 最終発表会 1月8日
- 論文を仕上げから必要なこと
 - 推敲
 - 抄録の作成
 - 最終発表会の準備
- とにかく早めに、計画的に！

終わりに 2

- 卒論締め切り 12月25日
 - あと4週間
- 順調に進んでいる人は・・・その調子で！
- 悩んでいる人は・・・おすすめ;とにかく書いてみる！
 - 指導教員やゼミの先輩に相談
 - ゼミの時間を活用
 - 個別指導の場合、積極的にみてもら

本日の作業

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">• 問いセットA<ul style="list-style-type: none">(a) 取り組んだ問題(b) 着眼点(c) 研究対象(d) 研究手法(e) 研究結果(考察・結論を含む)
(酒井聡樹. これから論文を書く若者のために. 共立出版. より) | <ul style="list-style-type: none">• 問いセットB<ul style="list-style-type: none">(a) 現在までに分かっている事は何か？(b) 何を新しく知ろうとしてこの仕事をしたのか？(c) 何故この仕事の結果が重要なのか, 何が面白いのか？(d) 実際の仕事の結果として分かったのは何か？(e) この結果はその分野の中でどのような意味があるのか？
(日本物理学会編. 科学英語論文のすべて. 丸善. より) |
|--|---|

本日の作業シート

- 授業終了までに一旦回収
- 学群学務係から返却
- 卒論の執筆に活用してください！

- 卒論締め切り 12月25日
 - ・・・あつという間です
- がんばってください！

